

伊方町議会第82回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
末光 勝幸 議員	1 平和教育と佐田岬半島ミュージアムの活用について	教育長

質問の要旨

先月の8月15日は、先の大戦の終戦80年ということで、新聞各紙をはじめ各種メディアに大々的に取り上げられました。

当町の佐田岬半島ミュージアムにおきましても、「戦争と佐田岬半島」という自主企画展が7月25日から10月13日まで開催されています。戦争の痕跡が我々の身近なところに残され、貴重な資料を拝見することができます。

戦争の痕跡といえば、当町（旧瀬戸町三机）には特殊潜航艇と呼ばれる小型の潜水艦で、真珠湾攻撃で戦死した9人を祀った「九軍神慰靈碑（揮毫 故内閣総理大臣佐藤栄作氏）」があります。また、令和3年には日本人捕虜第1号となり、作家山崎豊子さんが書いた「約束の海」のモデルとなった故酒巻和男氏を加え、10人全員の石碑が建立されました。

昨年のパリ五輪で卓球女子団体銀メダル、シングル銅メダルを獲得した早田ひな選手が帰国会見で知覧の「特攻資料館に行きたい」と発言し、話題になりました。全国の著名なミュージアムなどで、知覧特攻平和会館は南九州市が、大和ミュージアムは呉市が、大刀洗平和記念館は筑前町、愛媛県では紫電改展示館を愛南町でそれぞれ運営し、後世に平和教育を伝承しています。

前述の日本各地のミュージアムと同様、当町の三机には、戦争の記憶や教訓を継承することのできる第一級の資料などが残された、日本でも有数の場所であると考えます。しかしながら、その大切な資料は、瀬戸町民センターの一角と、当時宿泊に利用された岩宮旅館にひっそりと保存されています。

戦後生まれが国民の9割を占めるようになった現在、それらの資料はもっと多くの方々に見てもらうことが必要です。そして、伊方町において、小型特殊潜航艇などのレプリカなどを再現し、残された戦争の痕跡を佐田岬半島ミュージアムに常設展示して、日本人としての平和教育と、国のあるべき姿を考察して頂く場を提供することは、右、左のそれぞれの思想があるにしても、九軍神に関わった当伊方町としての責務でもあると私は思いますが、教育長の所見をお伺い致します。